



最初にお読みください

---

---

# AT-TQ4600/4400/3400/3200 リリースノート

---

この度は、AT-TQ4600/4400/3400/3200 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。このリリースノートは、マニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

---

## 1 ファームウェアバージョン 3.0.4

---

## 2 本バージョンで仕様変更された機能

---

次のバージョンアップにおいて、以下の仕様変更を行いました。  
AT-TQ4600/4400 ファームウェアバージョン **3.0.3 → 3.0.4**  
AT-TQ3400/3200 ファームウェアバージョン **3.0.2 → 3.0.4**

---

### 2.1 EAP message フレーム

本製品が送信する EAP message フレームの ID を常時 0 から開始していましたが、セキュリティ強化のためランダムな値 (0 から 255) を付与するように仕様変更しました。AT-TQ4600/4400 では、V.3.0.3 からこのように仕様変更されています。

---

### 2.2 同時接続している無線クライアントに対する帯域の配分

AT-TQ4600/4400 (IEEE 802.11ac を持つ機種) において、同時に接続している 20 台までの無線クライアントに対して均等に帯域を配分するように仕様を変更しました。以前の仕様では、8 台以上の無線クライアントが同時に接続している状態で通信帯域が足りなくなると、特定の無線クライアントに使用可能な帯域が集中し、その他の無線クライアントのスループットが低下することがありました。

---

## 3 本バージョンで修正された項目

---

次のバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。  
AT-TQ4600/4400 ファームウェアバージョン **3.0.3 → 3.0.4**  
AT-TQ3400/3200 ファームウェアバージョン **3.0.2 → 3.0.4**

**3.1** WDS 運用モードを「サテライト AP」に設定すると、WDS の接続相手が見つけれない場合に不正なメモリアクセスが発生することがありましたが、これを修正しました。AT-TQ4600/4400 では、V.3.0.3 から修正されています。

**3.2** コンフィグレーションファイルが壊れてしまった場合に、再起動を繰り返すことがありましたが、破損を検出すると工場出荷時設定に戻るよう修正しました。AT-TQ4600/4400 では、V.3.0.3 から修正されています。

- 3.3 無線クライアントが低消費電力モード（パワーセーブやスリープ）に移行したまま、接続中の本製品から完全に見えなくなってしまう場合、パケットが正常に送信できない状態になることがありましたが、これを修正しました。AT-TQ4600/4400 では、V.3.0.3 から修正されています。
- 3.4 AT-UWC 管理下にあるサテライトモードのアクセスポイントが WDS リンクを構成するときに起動されるプロセスが削除されないことがありましたが、これを修正しました。
- 3.5 W53/W56 帯のチャンネルを設定している場合に、AT-UWC でデバイスロケーションを実行すると、ピーコンが送信されなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 3.6 デバイスロケーションの実行中に使用可能なチャンネルのリストが上書きされてしまい、運用チャンネルが変わってしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 3.7 RADIUS アカウンティングパケットに設定するセッション ID (Acc-Session-Id) が 000000-000000 固定となっていました。これを RFC2866 推奨の実装に修正しました。
- 3.8 認証が完了していない無線クライアントから暗号化フラグが設定されたフレームを受信すると、AT-TQ4600/4400 が自律再起動する場合があります。これを修正しました。
- 3.9 AT-UWC 管理下の AT-TQ4600/4400 に、WPA バージョンが WPA2 だけで、かつ暗号方式が CCMP (AES) だけのセキュリティー設定を含む AP プロファイルを適用すると、無線クライアントが MFP 機能を有効にした無線 NIC を持つ Windows 8.1 PC である場合に接続できませんでしたが、これを修正しました。

## 4 本バージョンでの制限事項

---

ファームウェアバージョン **3.0.4** には、以下の制限事項があります。

### 4.1 VAP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「VAP」](#)

- ダイナミック VLAN (WPA エンタープライズ) 環境で、無線クライアントの検疫を実行するように RADIUS サーバーが設定されている場合、無線クライアントに VLAN 間ローミングが発生すると、無線クライアントの認証に失敗することがあります。
- 無線クライアントがアクセスポイントから切断して 3 秒以内に再接続すると、RADIUS アカウンティングパケットに設定されるセッション ID が更新されません。

### 4.2 WDS 多段接続

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「WDS」](#)

多段で WDS 構成をする場合は、3 台程度での構成を推奨します。

AP -- (WDS) -- AP -- (WDS) -- AP

注意：アクセスポイント (AP) を何段も経由するとスループットが低下するため、導入の際は実環境にて事前調査を行うことを推奨します。

---

### 4.3 MAC フィルタリング

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「MAC フィルタリング」](#)

MAC フィルタリング機能の「リスト上の全てのステーションをブロックする」フィルターと WDS の併用はできません。併用すると WDS のリンクが切断されてしまいます。WDS と MAC フィルタリングを併用する場合は、「リスト上のステーションのみを許可する」を選択し、無線クライアントのリストに対向アクセスポイントの MAC アドレスを追加してください。

---

### 4.4 クラスタ

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「クラスタ」](#) / [「アクセスポイント」](#)

クラスタ機能において、ひとつのクラスタに所属可能なアクセスポイント数を超える台数 (17 台以上) を追加すると、画面上では 17 台目以降の情報は表示されませんが、追加したアクセスポイントでクラスタの設定が共有されたり、誤動作を起こしたりすることがあります。

---

### 4.5 送信 / 受信

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「ステータス」](#) / [「送信 / 受信」](#)

起動の際に、VAP インターフェースの送信カウンターがカウントアップしますが、表示のみで実際にはパケットを送信していません。

---

### 4.6 SNMP

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「オプション設定」](#) / [「SNMP」](#)

SNMP の設定において、「SNMP SET リクエストの許可」は未サポートです。

---

### 4.7 無線

 [「リファレンスマニュアル」](#) / [「詳細設定」](#) / [「無線」](#)

AT-TQ4600 において、モードを「IEEE 802.11a」から「IEEE 802.11a/n/ac」に変更した場合は再起動してください。再起動を行わない場合、期待するスループットが得られません。

---

## 5 リファレンスマニュアルについて

最新のリファレンスマニュアル (613-001965 Rev.C) は弊社ホームページに掲載されています。本リリースノートは、上記のリファレンスマニュアルに対応した内容になっていますので、お手持ちのリファレンスマニュアルが上記のものでない場合は、弊社ホームページで最新の情報をご覧ください。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>